

豊中天文協会 30 周年記念誌



豊中天文協会 30 周年記念行事
 2017 年 10 月 14 日
 豊中市立芸術文化センター

豊中天文協会
 2018 年 1 月 6 日発行



豊中天文協会 30 周年を迎えて

豊中天文協会 会長
森部 好信

豊中天文協会は、この度 30 周年を迎えました。無事この日を迎えましたことは、関係各位の日頃のご理解ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

先日の記念行事のご挨拶でも申し上げたことですが、この 30 年の間には土星が太陽を1周して発足時と同じさそり座附近で輝いています。この年、1987 年 2 月には大マゼラン雲に超新星が出現し、ニュートリノが検出されてその数年前まで謎の天体現象であった超新星の研究が大いに進み、天文／物理学は大変な興奮状態になりました。現在では 1987A は超新星残骸として、「こと座のリング星雲」のようにリング状の星雲に変化しています。つい最近のこのように思われますが、我々が活動していた 30 年の間に起きた出来事です。

我々は観測こそ行なっていませんが、学校教育の一環として学習観望会を実行していることは大いに誇れることだと思っています。子ども達だけでなく、引率の先生、保護者の方々までが喜んで見ていると、活動を継続していて良かったという気分になります。私と同じように協会の皆さんは、きっとこの気持ちを持(保)ち続けて、ここまで長く活動して来られたのだと思います。実際に X 線天文学の信川先生は、協会が実施した学習観望会に参加した子ども達の一人であったように、今後豊中市から本物の宇宙飛行士が誕生するのではないかと、今から大いに期待しております。多くの人々に天文に対する興味を持ってもらうきっかけを作ったことが大きな実りになったということの証だと思います。

最後になりましたが、私自身は協会の活動に参加してまだ一番日が浅いと思いますが、会長として改めて会員の皆さまに御礼申し上げます。

豊中天文協会結成の経緯

元副会長 現会計監査
堀田 文一

豊中天文協会が結成されたのは 1987 年。ハリー彗星の地球再来がきっかけでした。

ハリー彗星は、イギリス人エドモント・ハリーが、76 年の周期彗星であることを発見し、1758 年に回帰することを予言しながら、再来を見ることなく他界した由緒ある彗星です。1910 年の再来時には、ハリー彗星の尾は天頂から水平まで伸びていたそうです。ハリー彗星に地球の空気が吸い取られというデマも飛び、少しでも空気を蓄えて生き延びようと、浮輪が買い占められたという事件も起きました。

1986 年の再来時は、生きていうちにハリーすい星が見られると、中高年の血が騒ぎました。望

遠鏡店では望遠鏡が飛ぶように売れ、豊中市民の間でも 7 回以上のハリー彗星を見る会が開催され、オーストラリアへの観測隊も派遣されました。

今回は最接近時でも地球との距離が大きく、ハリー彗星の壮大な姿は見られませんでした。それでも市民の中で天文への関心が大きく高まりました。

翌年、市民の期待に応え、豊中市立少年自然の家(わっばる・能勢町)に天文台が建設されました。1970 年代前半の建設費高騰により、設計図にはわっばるの屋上に天文台があったものの、建設されませんでした。その幻の構想がよみがえりました。

その年の9月、沖縄で金環食があり、豊中からも沖縄金環食観測に行きました。

10 月、これらの活動を展開してきた豊中天文同好会、豊中市職員天文クラブ、みんなで星空を楽しむ会、日本天文同好会豊中支部は、当時の豊中市教育委員会青少年課長岩田氏の呼びかけで、豊中天文協会を結成しました。目的は、わっばる天文台の管理運営と、子どもたちに望遠鏡で星を見せ、宇宙への夢とロマンを育てることでした。

翌月、結成記念行事として第1回豊中星空まつりin能勢を開催したところ、満員盛況となり、賑やかに天文イベントを楽しむことが、天文協会の活動の一つになりました。

協会が本格的に活動を展開することになった 1988 年は、17年ぶりの火星大接近の年でした。協会は大接近時の 9 月、豊中市内各地で火星観望会を 14 回開催し、3880 人の市民が大接近の火星を望遠鏡で見ました。

その後、目立った天文現象がない時に協会がどのような活動を展開するかが、課題でした。前年の火星観望会の経験から、小学校の協力を得て、学習に合わせ、子どもたちに星を見せることが、最も効率的で効果的となり、学習観望会が以後の天文協会の最も重要な活動となりました。

豊中天文協会は結成 30 周年を迎えましたが、結成時の活動を今も続けています。子どもたちの宇宙への夢とロマンを育てることは、時代が変わっても大切な仕事です。

豊中天文協会 30 年を振り返って

事務局長 野村 重男

私は、天文協会の設立当初から関わっていると記憶しています。青年の家いぶきの建設工事の設備担当をしていたことや、2 代目岩田会長とのご縁もあり協会の活動に参加したと思い起こしています。振り返れば 30 年間、沢山の方々とご縁が出来ました。中でも初代天筒会長の行動力とエネルギーはすごかった。いつも伴星を伴っているようで、私も感化されたのかもしれない。



協会の活動では、平成 8 年日本財団から高橋FS128ENの寄贈の連絡を旅先の車の中で受けた時、「やった-！」と叫んだことを思い出します。これに気をよくして、平成 18 年にはセブン・イレブンみどりの基金高橋 TOA130。平成 23 年には杉本雅俊さんのご尽力により「ヘンケルジャパン」より Ha 太陽望遠鏡(ラント 80)。平成 24 年には阪急阪神未来のゆめ・まち基金から 40 万円の助成。この予算で設立 25 周年記念事業バスツアー(熊野少年自然の家)を実施。平成 29 年には、こどもゆめ基金助成をいただき、「手作り天体望遠鏡で星空観察 2017」を実施。このように補助金申請に挑み続けた 30 年でありました。

天文現象で思い出すのは、平成 6 年服部緑地のSL9 観望会で NTT とネット中継をしたことや、平成 13 年のしし座流星群で浴びるような流星を求め走り回った事などが、いつまでも残像のように



目に焼きついています。そして 2017 年は、念願の「30 周年記念イベント」開催と、「アメリカ皆既日食」に参加できたことは、生涯忘れられない出来事になるに違いありません。30 年を越え、40 年・50 年と持続可能な活動に向け次世代へ引き継いでいきましょう！

豊中天文協会 30 周年を祝して

顧問 岩田 茂

豊中天文協会 30 周年おめでとうございます。

昭和 62 年の設立以来、豊中市民のための天体観望会・星空まつり、豊中の小学校生徒のための学習観望会など、数々の天文イベントが歴代の役員及び運営委員の熱心な活動によって実施されてきました。これからも多くの市民に、初めて望遠鏡で星を見たときの感動を伝えられるような活動が継続されることを期待しております。

2005 年総会



2009 年総会



豊中天文協会 30年の歩み (略歴)

昭和 62 年(1987 年)	10 月	豊中市立プラネタリウム館で本協会設立
	11 月	第 1 回星空まつり実施
昭和 63 年(1988 年)	8 月	全国スターウオッチングネットワークに参加開始
	9 月	火星大接近に伴い教育委員会と当協会の共催で市民観望会を実施(13 回実施、参加市民 3880 名)
平成元年(1989 年)	9 月	学習観望会事業を開始(市内小・中学校対象)
平成 6 年(1994 年)	7 月	シューメーカー・レビー第 9 彗星の木星への突入観望のため服部緑地公園西口広場にて 3 日間市民観望会実施(参加者合計約 1800 名)
平成 9 年(1997 年)	4 月	ヘール・ボップ彗星の観望会を野畑小学校の校庭で実施(2 日間参加者合計 680 名)
平成 13 年(2001 年)	8 月	協会設立 14 周年記念事業として高知県土佐町早明浦にバスツアー(参加者 39 名)
平成 19 年(2007 年)	8 月	皆既月食の観望会を服部緑地公園西口広場にて実施(参加者約 750 名)
平成 21 年(2009 年)	7 月	日食観測会を豊島公園グランドにて実施(参加者 200 名)
平成 23 年(2011 年)	12 月	皆既月食観望の星空まつり(第 25 回)を豊中市立青少年野外活動センター「わっぱる」にて実施(参加者 150 名)
平成 24 年(2012 年)	8 月	協会設立 25 周年記念事業として熊野少年自然の家へバスツアー実施(参加者 40 名)
平成 26 年(2014 年)	5 月	ふれあい緑地完成記念イベントで太陽観察(参加者 191 名)
	6 月~ 7 月	市民活動情報サロンショーウィンド展示
平成 28 年(2016 年)	2 月	「星なかまの集い～天文楽サミット～」にて「森本奨励賞」受賞、西脇市青年の家にてワニ天くん誕生!
平成 29 年(2017 年)	5 月	ふれあい緑地フェスティバルで太陽観察(参加者 290 名)
	10 月	協会設立 30 周年記念事業として豊中芸術文化センターで講演会実施(参加者 157 名)

豊中天文協会30年誌に寄せて【協会員の寄稿】

運営委員 池上由紀子

旅行好きの私が、学生の頃見たヨーロッパの本にジャコビニ流星雨の絵が載っていました。小さい時から星を眺めるのが好きだったこともあり、どうにか流星雨が見られないかと長野県の高原まで出かけていきました。残念ながらそのときは全く見る事が出来ませんでした。私が本格的に星を見るために行動を起こしたきっかけです。



それから豊中の公園で天文協会の方が、月や星を望遠鏡で見せる活動されているのを知り、望遠鏡で見る天体に感激したのが私と天文協会との出会いと参加への始まりです。その時に説明されていた岩田先生や堀田さん、野村さん、後藤さんが、今では仲間として一緒に活動させていただき、学ぶことも多くありました。また、活動を通じてさまざまな職業や社会的地位の方達と出会う事ができ、その方達からも学ぶところが多くて人生を豊かにしていただいていると感じています。

天文協会発足以来、小学生を中心に月や星を見る機会を提供しており、私も一員として参加してから、子供達が望遠鏡をのぞいて嬉々としている様子を見て幸せな気持ちを貰ったり、一緒に天文現象を見て勉強をさせていただき、興味を深めました。

30周年に当たり、一緒に活動させていただいた皆様との出会いに深く感謝いたします。

副会長 井上 正弘

私が天文に興味を持ち始めたのは中学生の頃で、それ以来、高校時代から二十台の半ばにかけて天文同好会の活動に没頭していましたが、世帯を持ち子供が幼少の頃は天文から遠ざかって

いました。子供が成長し、気持ちに余裕ができてきたころ天文の活動を復活したいと思うようになったのですが、そこで出会ったのが本格的に活動を始めた豊中天文協会でした。

その頃は四十代で会社の仕事が忙しくて観望会へもほとんど顔を出さず、年 1 回の総会に参加するだけでしたが、指導員研修会や星空まつりに参加するうちに協会の運営委員の皆さんと親しくなり、いつの間にか協会での活動が天文との関わりの大部分を占めるようになりました。今年是指導員研修で香川県の天体望遠鏡博物館の見学等、協会の皆さんと旅行したことや、30 周年記念行事を成功させるために力を合わせたことなど印象深い年となりました。



会社の定年年齢を過ぎた今でもまだ一部の仕事を引きずっているため協会の活動に全面的な注力ができず、七十歳を超えた現在、機材の運搬等の作業では「猫の手」程度のお手伝いしかできないのを申し訳なく思っていますが、体力的に可能な限りの作業に参加を続けたいと考えております。

豊中天文協会が 30 周年を迎えたことは喜ばしいことではありますが、今後も活動を続けていくためには、高齢化した運営スタッフの世代交代が必要となってきているのではないかと思います。現役世代の皆さんにとってはなかなか難しいことかもしれませんが、今後の協会を引き継いでいくという若手の人が現れることを切に祈っております。

運営委員 大野律子

豊中天文協会の 30 周年、おめでとうございます。

ご先輩の皆様方、長い間のご活動 本当にご苦労様です。私と天文協会との出会いは、長男が小 6 の観望会でした。その時のスタッフの方々に、親切に対応して頂き 星の世界がぐんと近くなり、気が付けば 私もその中に入っておりました。

今でも、星や星座のことを聞き続け、自己紹介では「星のことはあまり聞かないで」と言っている私ですが、いつも新しいことに遭遇します。

季節や時間、場所、天気により違いはありますが、星はいつでも身近。観望会に参加する子供たちにも、どこでも見ることができる星の世界に目覚め、楽しんで頂きたいと思います。

未知の世界にわくわく、の天文の世界。

記憶が蓄積しない現実もありますが、私も大いに楽しませていただきます。



運営委員 後藤 順一

もうすぐ、ほうき星が来て空気が 5 分間ほど無くなる。
バケツに水を張り何分我慢できるかを学校や家庭で訓練していたよ。
これは、明治 34 年(1901 年)生まれの祖母から聞いた話。
明治 43 年(1910 年)はハレーすい星が地球に接近した年で、祖母は小学校四年生でした。
それから 76 年後の昭和 61 年(1986 年)、再びそのほうき星が地球に回帰してきました。
ちょうどその頃、当協会設立発起人の岩田先生、当時市議会議員の堀田さん達と豊中市職員天文
クラブを立ち上げ、能勢や葛城山などにその姿を一目見ようと駆け巡りました。
ハレーすい星、土星などの惑星やアンドロメダ銀河など、宇宙の神秘さを私達だけで楽しむのはも
ったいない。子ども達や市民の人たちと共に感動を共有したいと感じるようになり、協会を立ち上げ
る事になりました。

設立から 30 年間、高学年を対象に小学校での観察会、能勢宿野にある豊中市立少年自然の
家での星空祭りや市内の公園などでの観察会を実施してきました。
平成 29 年 10 月、設立 30 周年記念事業として、文化芸術センターで京都大学教授の柴田一成先
生の公演、アニメの上映、アメリカ皆既日食参加者の報告会を実施し、多くの人達に参加して
いただきました。

祖母は、2 回目のほうき星を我が家のベランダから眺めて、バケツ無しで見られて満足や、と言っ
ていたことを思い出しながら、此れからも宇宙の神秘さを子供たちに伝えて行きたいと思っています。

副会長 中川 均

豊中天文協会設立 30 周年おめでとうございます。

私は小学校の授業で天文を習った頃から興味を持ち始め、特に中学では晴れた日は必ず見る
ほど熱心でした。

そのころは高槻市でも天頂付近は天の川が見えるほど暗い空でした。

しかし、その後は部活、仕事、他の趣味、結婚、育児、転居などもあり、天文活動はまるで太陽の
ように極大期と極小期を繰り返していました。

少し振り返ってみると、小学生の時に年玉を貯めて 4 センチの望遠鏡を買い、月、土星、木星、
金星を見て感激し、中学では 10 センチ反赤で色々な天体を見たり撮ったり、高校では見事なウエ
スト彗星が現れ、社会人ではハレー彗星に会え、さらに 90 度以上の尾が見えた百武彗星、2001 年

しし座流星雨やそのほかもさまざまな天文現象を見てきました。



Telescope



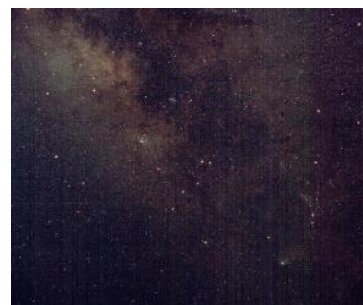
Moon



C.West



Lyra



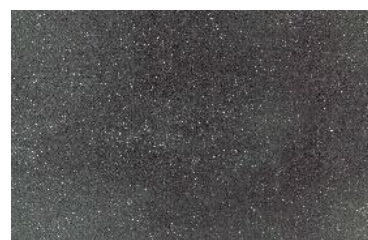
C.Halley



Mars



Venus



Cygnus

それから50歳になり、仕事も多少落ち着き残業が少なくなり、よく一緒に見ていた友人も天文から遠ざかっていて、ひとりでは寂しく思い天文協会の門を叩きました。

協会では内輪で見るだけでなく、他の人に見せるという自分にとってはとてもいい経験をさせていただいています。

また、協会のご縁で待望の皆既日食が、今年、快晴のアメリカで見られたこともうれしいひとつです。



今後も協会にお世話になりますが、皆様よろしく願いいたします。

運営委員 長嶋 玲

私も豊中天文協会設立当初より参加させていただき、楽しい思い出ばかりです。

皆既・金環日食、皆既月食、彗星、流星群、シューメーカー彗星の木星衝突などなど、多くの皆さんと観望した天文現象をはじめ、小学校、公民館また星空まつりでの観望会での多くの子供たちの歓声と笑顔が何より印象に残っています。

いよいよ、豊中天文協会も星空まつりやその活動が全国ネットのコミュニティFMラジオの番組中で紹介されるなど、全国的に知られるようになって来ました。

新しい年を迎えるにあたり、今後益々の豊中天文協会の発展と地域の子供たちに宇宙への夢を拡げてあげられるということを第一に、皆さんとご一緒に末永く楽しんで活動できますことをお祈りします。よろしく願いいたします。

私は、約 20 年前に池上さんに誘われて、能勢の青少年野外センター(今のわっぱる)で催された“星空まつり”に参加しました。これが豊中天文協会とのご縁の始まりです。

その年は残念ながら土星は見る事が出来ずとても心残りでした。翌年また星空まつりに参加した時、幸運にも土星を見る事が出来、実物の土星のわっかを見てとても感激したことを今でもよく憶えています。

当初は見せてもらう立場から、今では何故か見せる立場になっている自分にとっても驚いています。学習観望会で子供達が、望遠鏡や双眼鏡を通して月のクレーターや土星のわっか、二重星、星団等美しく輝く星々等を見て、目を輝かせ「すごい！」と声を発している様を目の当たりにしてとても嬉しく思います。

いつまで出来るかどうかわかりませんが、子供達の喜ぶ姿や声をこれからも見ていけたらと、願っております。

星空まつりの記念写真



協会設立 30 周年行事

2017 年 10 月に豊中市芸術文化センターにおいて豊中天文協会設立 30 周年記念行事が行われました。

日時:2017 年 10 月 14 日 18:30～21:00

会場:豊中市芸術文化センター 小ホール

参加者:157 名

プログラム

18:00	開場	
18:45	開式	司会:踊り子ゆっこさん
18:47	会長挨拶	森部 好信 会長
18:50	設立の経過	堀田 文一 元副会長
19:00	記念講演	柴田 一成 教授 (京都大学大学院理学研究科附属花山天文台台長) 「とんでもなくおもしろい宇宙 恐ろしい太陽の話」
20:10	映画上映	忍たま宇宙大冒険、コスミックフロント
20:40	アメリカ日食 報告会	茶木 恵子、中川 均、野村 重男、堀田 文一、 長嶋 玲、井上 正弘
21:00	閉会挨拶	野村 重男 事務局長

豊中市芸術文化センター入口



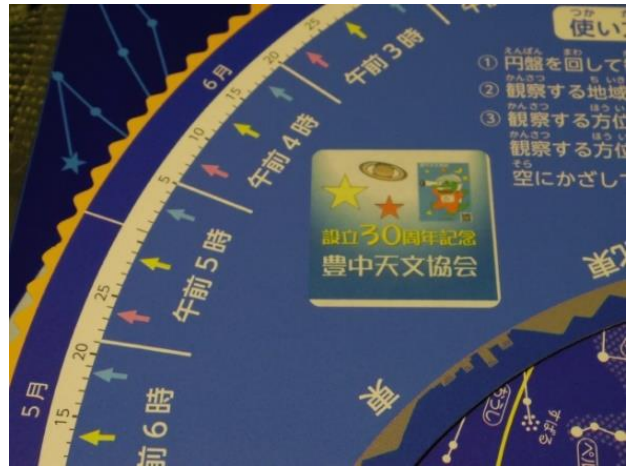
会場への案内看板



受付風景
(参加者に記念品配布)



参加者に配布した星座早見盤
(30周年記念のラベル付き)



会場内部



踊り子ゆっこさんの司会で開式



森部会長の挨拶



設立の経過(堀田元副会長)



柴田先生の講演



講演後のサイン入り著書販売



日食報告会



豊中天文協会主催ツアー




野村事務局長の挨拶



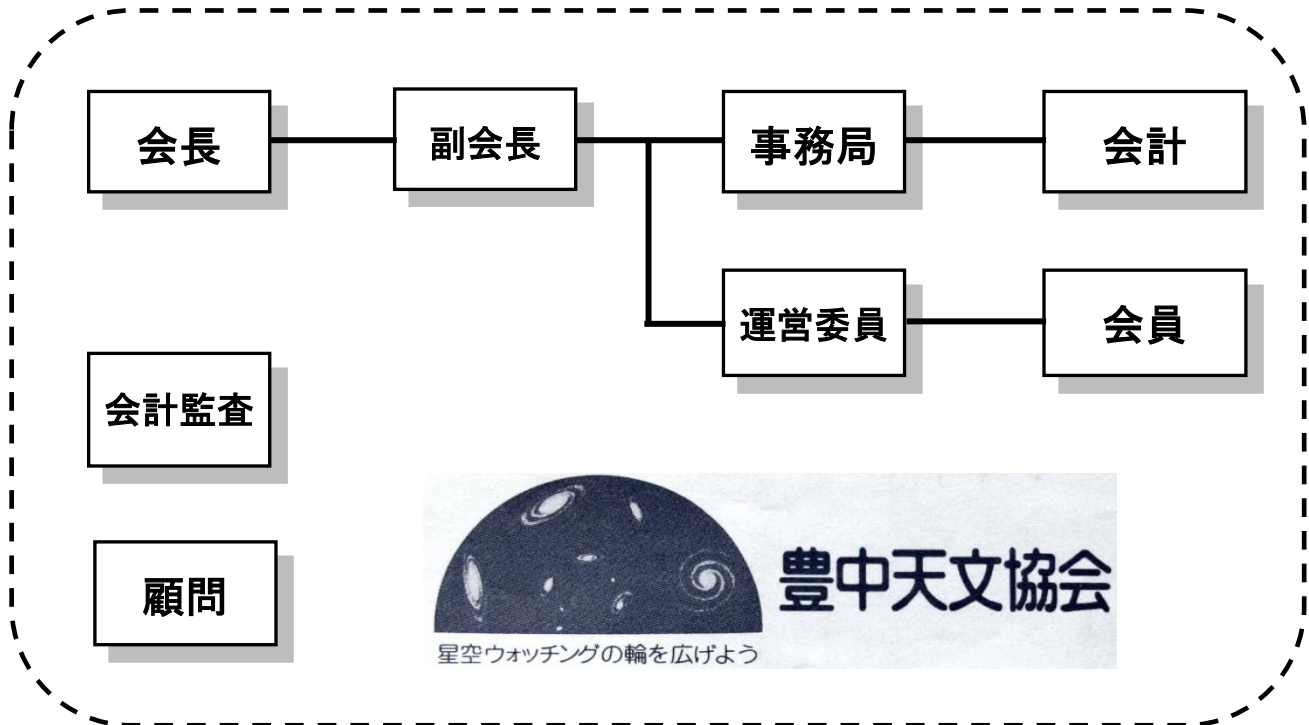
豊中天文協会の沿革(詳細)

昭和 62 年(1987 年)	6 月	豊中市立少年自然の家(宿野)に天文台設置。 (150 mm 屈折赤道儀:高橋FC150 及び 150 mm 双眼鏡:フジノン)
	10 月	26 日 豊中市立プラネタリウム館で本協会結成。
	11 月	28~29 日 第 1 回星空まつり実施。
昭和 63 年(1988 年)	4 月	豊中市立少年自然の家(宿野)に協会事業として天体観望指導員派遣を開始。
	5 月	豊中市立プラネタリウム館主催の市民観望会に協会事業として指導員派遣を開始。
	8 月	全国スターウォッチングネットワークに参加開始。
	9 月	火星大接近に伴い教育委員会と当協会の共催で市民観望会を実施。 24 回計画、13 回実施、参加市民 3880 名
平成元年(1989 年)	9 月	学習観望会事業を開始。(市内小・中学校対象)
平成 5 年(1993 年)	11 月	天筒会長が協会活動の功績により豊中市教育委員会より教育功労者表彰された。
平成 6 年(1994 年)	7 月	シューメーカー・レビー第 9 彗星の木星への突入観望のため、服部緑地公園西口広場にて、17 日、20 日および 22 日の 3 日間豊中市教育委員会との共催のもと、NTT 豊中支店の協力を得て市民大観望会のイベントを実施。 市民参加者合計 1800 名
平成 7 年(1995 年)	11 月	15 年に 1 度の土星の環の消失を記念して、克明小学校と庄内小学校の 2 か所で市民観望会を開催。 参加者合計約 97 名
平成 8 年(1996 年)	5 月	日本財団より天体望遠鏡(高橋 FS128EN 屈折赤道儀)の寄贈を受けた。
平成 9 年(1997 年)	4 月	9,10 日 ヘル・ポップ彗星の観望会を野畑小学校の校庭で実施。参加者 680 名
平成 11 年(1999 年)	11 月	17 日 しし座流星群の観望会を豊中市立少年自然の家で実施。参加者 50 名
平成 12 年(2000 年)	5 月	憲法発布記念日にあたり天筒会長が天文活動を通じて社会教育に多大の功績があったとして、豊中市長から表彰を受けた。
	11 月	しし座流星群観望会を豊中市立少年自然の家で実施。 参加者 30 名
平成 13 年(2001 年)	5 月	25~26 日 大江山グリーンロッジにて指導員一泊研修会を実施。参加者 37 名
	8 月	18~19 日 協会設立 14 周年記念事業として指導員研修会を兼ねて高知県土佐町早明浦荘にバスツアー。参加者 39 名
	11 月	18~19 日 豊中市立少年自然の家にてしし座流星群観望をメインとした第 15 回星空まつりを実施。 参加者 170 名
平成 15 年(2003 年)	8 月	6 万年ぶりに地球に大接近した火星観望をメインにしたイベントを豊中市教育委員会後援のもと大門公園にて実施。(23 日は当初曇っていたが後半晴れたので観望成立、30 日は夕刻から雨となったため中止) 参加者約 160 名
	11 月	8 日 当協会結成時からの会長、天筒会長が大阪府青少年育成会議から天文活動を通じて青少年健全育成に多大な貢献があったとして、同会議長(府知事)から表彰を受けた。
平成 16 年(2004 年)	5 月	ニート、リニア両彗星の接近に伴い宿野の豊中市立少年自然の家でミニ星空まつりを一般公募と指導員研修を兼ねて実施。(曇天のため観望できず) 参加者 23 名
平成 17 年(2005 年)	1 月	設立当初から当協会々長を務めて来られた天筒敏夫氏が高齢のため退任を申し出られたため総会で新たに岩田茂氏を会長に選任。
平成 18 年(2006 年)	6 月	セブン・イレブンみどりの基金の援助により高橋 TOA130 屈折望遠鏡、EM200 赤道儀、DELL ポータブルコンピューターおよび EPSON 液晶プロジェクターを購入。

平成 19 年(2007 年)	8 月	28 日 6 年半ぶりの皆既月食の観望会を豊中市教育委員会後援により服部緑地西口広場で実施。(生憎の曇り空ながら皆既中の月と後半晴れ上がったため食の観望が可能となった) 参加者約 750 名
	10 月	ホームズ彗星の突然のバーストにより増光した姿を学習観望会で小学生が観察。
平成 20 年(2008 年)	5 月	当協会の結成をリードし、10 年余り事務局長を勤められた、岩田会長が、憲法記念の豊中市長表彰(青少年健全育成)で、表彰された。 ※永年天文活動を通じ青少年の健全育成に多大な寄与
平成 21 年(2009 年)	1 月	定例総会にて、岩田会長及び堀田副会長勇退の申し出でにより、松原氏が新たに会長、野村氏が副会長に選任された。会計担当役員には錦谷氏を新たに選任し、事務局長は松原会長の兼務とした。また岩田氏は顧問に、堀田氏は会計監査に就任。
	7 月	46 年ぶりの日本での皆既日食に関して、豊中市未来青年部青少年課主催で日食観望会を豊島公園グランドにて開催。当日は曇り空ながらうす雲の間から観望できた。(参加者 200 名)
平成 22 年(2010 年)	2 月	環境をよくする活動に、自主的・積極的に取り組んでいる団体として、第 3 回 とよなかエコ市民賞を受賞した。
	11 月	30 日 岩田元会長が、豊中市長表彰に続き、大阪府青少年育成会議から天文活動を通じて青少年健全育成に多大な貢献があったとして、大阪府知事(同会議長)から「青少年育成功労者表彰」を受賞した。
平成 23 年(2011 年)	3 月	とよなか市民活動ガイドブックに掲載(P.56)。
	6 月	杉本雅俊さんの勤務する会社「ヘンケルジャパン」よりボランティア補助金 5000 ユーロをいただき、Ha 太陽望遠鏡(ラント 80)を購入。
	9 月	顧問:初代会長天筒敏夫さんが逝去。(享年 97 歳)
	12 月	皆既月食の観望をメインテーマに、豊中市立青少年野外活動センター「わっぱる」にて、第 25 回豊中星空まつりを実施。(150 人参加)
平成 24 年(2012 年)	3 月	会長:松原司氏が急逝。(享年 72 歳)
	5 月	阪急阪神未来のゆめ・まち基金の、市民団体助成プログラムにより 40 万円の助成。
	5 月	21 日 金環日食(服部緑地)ゲリラ観望会を実施。250 人参加
	6 月	6 日 金星の日面通過(服部緑地)ゲリラ観望会を実施。500 人参加
	8 月	設立 25 周年記念事業バスツアー(熊野少年自然の家)(18~19 日)参加者 40 名。不安定な天候のなか、夜半には天の川や流れ星も見えた。翌日は昼の金星、木星、水星、シリウス、太陽黒点を観察。
	11 月	しし座流星群を期待し、「わっぱる」にて、第 26 回豊中星空まつりを実施。(145 人)天候不良。
	平成 25 年(2013 年)	3 月
8 月		12 日 ペルセウス座流星群(服部緑地)ゲリラ観望会を実施。(38 名)
9 月		6 日 仲秋の名月(大塚公園)ゲリラ観望会を実施。(32 名)
11 月		17 日~18 日 アイソン彗星を期待して、「わっぱる」にて第 27 回豊中星空まつりを実施。(182 人)
平成 26 年(2014 年)	5 月	3 日、ふれあい緑地完成記念イベントで●太陽観察。(191人) 同日、ふれあい緑地 春の星座観察会(春の大三角)。(50 人)
	6,7 月	6 月 13 日~7 月 1 日 市民情報活動サロンショーウインド展示。
	8 月	12 日 ペルセウス座流星群(服部緑地)ゲリラ観望会を実施。(38 名)
	9 月	9 日 仲秋の名月(大塚公園)ゲリラ観望会を実施。(17 名) 21 日、豊中駅前 こくりゆうすてっぷサロンでジャンプ! 太陽観察。(200 人)
	11 月	15 日~16 日 「わっぱる」にて第 28 回豊中星空まつりを実施。(187 人)
平成 27 年(2015 年)	5 月	3 日、ふれあい緑地フェスティバル ●太陽観察(310 人)

		<p>※産経新聞に掲載された。 30日～31日 わっぱる春のオープンフェスタ●太陽観察(計181人) ※星座早見缶制作</p>
	6月	27日～28日 JAAA2015「日本天文愛好者ミーティング in 京都」でパネル展示。
	9月	26日 原田しろあと館 お月見会実施。 ※中秋の名月イブ(40人) 27日 仲秋の名月(大塚公園)市民星空観望会を実施。(75名)
	10月	21日 きたしん豊中広場 市民星空観望会 ※豊中駅前人口広場(48人)
	11月	7日 千里キャンドルロード初参加。天候不良:一瞬だけベガ(150人)
平成28年(2016年)	2月	27日 ワニ天くん 誕生! 28日 星なかまの集いにて、栄誉ある「森本奨励賞」を受賞☆。 プレゼンター:国立天文台副台長 渡部潤一さん
	3月	12日～13日 「わっぱる」にて、第29回☆豊中星空まつり実施。 (156人):耐震工事でこの年は3月に実施。 19日 阪急阪神 ええまちつくり隊 2016 星空の話を聞いて、天体望遠鏡を作ろう!を実施。いぶきにて 25組の親子が参加。
	5月	3日 ふれあい緑地フェスティバル ●太陽観察(130人)曇天で星座傘やお話。 21日 親子望遠鏡工作教室開催。「星を見よう☆自分で作った望遠鏡で」(4組)
	7月	23日 親子望遠鏡工作教室開催。「星を見よう☆自分で作った望遠鏡で」(3組)
	9月	10日 市民活動ジャンプフェスタにて太陽観察:141名
	10月	21日 きたしん豊中広場 市民星空観望会 ※豊中駅前人口広場(48人)
	11月	26日 環境展に参加(豊島体育館)太陽観察(220人)
平成29年(2017年)	3月	25日～26日 独立行政法人国立青少年教育振興機構の平成28年度子どもゆめ基金助成をいただき、親子20組の参加で、手作り天体望遠鏡で星空観望2017を実施。
	4月	7日 わっぱる依頼により大阪大学理学部の新入生観望会。新入生96名 阪大スタッフ約10名 あいにくの天候でホームスターで星空案内
	5月	3日 ふれあい緑地フェスティバル ●太陽観察。
	7月	29日 親子望遠鏡工作教室開催。「星を見よう☆」(5組)
	8月	5日 親子望遠鏡工作教室開催。「星を見よう☆」(5組)
	9月	10日 市民活動ジャンプフェスタにて太陽観察。
	10月	<p>14日 豊中天文協会30周年記念事業開催。 豊中市立文化芸術センター小ホール(曾根駅前)</p>  <p>朝日新聞、読売新聞に案内が掲載され、157人参加。 記念講演:柴田一成 教授 (京都大学大学院理学研究科 附属花山天文台 台長) 演題:「とんでもなくおもしろい宇宙」</p> <p>記念品(星座早見盤)がもらえるよ!!</p>
	11月	3日 千里キャンドルロード参加。(天候不良)

豊中天文協会 組織図



2017 年役員及び運営委員

No.	役職	氏名	所属	特任事項
1	会長	森部好信	豊天	
2	副会長	井上正弘	日天	
3		中川均	一般	
4		坂井誉志夫	一般	主任解説委員兼事務局補佐
5	事務局長	野村重男	市職	
6	会計	錦谷佳代	ベガ	搬送委員
7	運営委員	池上由紀子	ベガ	
8		後藤順一	市職	
9		谷口勝之	市職	
10		茶木恵子	豊天	広報委員
11		神堀正登	皆で	
12		杉本雅俊	日天	

13		村尾 毅	AOA	解説委員
14		濱本 雅也	AOA	
15		杉本 敬信	一般	
16		安田 留美	一般	解説委員
17		斎木 伸之	一般	解説委員
18		東 万里枝	一般	解説委員・搬送委員
19		大野 律子	ベガ	解説委員
20		林 政邦	豊天	解説委員
21		長嶋 玲	豊天	解説委員
22		伊藤 慧	市職	
23		斎木 拓也	一般	*
24	会計監査	堀田 文一	皆で	
25	顧問	岩田 茂	市職	
26		平野 敏夫	市職	

※所属

豊天:豊中天文同好会

市職:豊中市職員天文クラブ

皆で:みんなで星空を楽しむ会

日天:日本天文同好会豊中支部

AOA:AOA

ベガ:サークル・ベガ